事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる　心豊かな国創り

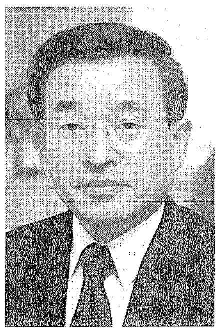
ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
Vol.18
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町
15-18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03-3639-0641
ＦＡＸ03-3639-0640

北海道支部　〒060-0807 札幌市北区北７条西４－１－２（札幌丸増ビル４Ｆ）　電話(011)738-0641　FAX(011)738-0640
東北支部　〒984-0816 仙台市若林区河原町１－３－24（大和第２ビル１Ｆ）　電話(022)716-6701　FAX(022)716-6710
関東支部　〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋ＳＫビル４Ｆ）　電話(03)3639-1571　FAX(03)3639-3980
北信越支部　〒950-0951 新潟市鳥屋野２－11－16（古木工業ビル１Ｆ）　電話(025)282-1031　FAX(025)284-7810
中部支部　〒460-0008 名古屋市中区栄３－28－21（愛知建設業会館６Ｆ）　電話(052)249-7661　FAX(052)242-6280
近畿支部　〒530-0012 大阪市北区芝田１－４－14（芝田町ビル８Ｆ）　電話(06)4802-3071　FAX(06)4802-3070
中国支部　〒730-0017 広島市中区鉄砲町５－21（協栄生命広島鉄砲町ビル５Ｆ）　電話(082)511-2051　FAX(082)227-2720
四国支部　〒760-0055 高松市観光通２－２－15（ダイヤビル本館７Ｆ）　電話(087)812-0131　FAX(087)812-0130
九州支部　〒812-0011 福岡市博多区博多駅前４－10－13（奥村第３ビル４Ｆ）　電話(092)472-7000　FAX(092)472-7100
ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/　Ｅメール info@kasetsuanzen.or.jp　各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

墜落・転落事故撲滅に向けて

1997―2000年度の間に、東京都水道局発注の工事や維持管理で発生した人身事故は32件あり、このうち墜落・転落事故の占める割合は42%ともっとも高くなっています。また、死亡事故の半数が墜落・転落事故によって占められており、墜落・転落事故防止は工事の安全管理上、最大の課題となっています。人身事故の発生状況は97年度をピークに下降傾向にありますが、墜落・転落事故は年度ごとにばらつきがあるものの、減少傾向にあるとはいえない状況にあります。死亡事故の最大要因である墜落・転落事故の撲滅へ向け、防止策を積極的に展開している東京都水道局の取り組みを御園良彦東京都水道局建設部長に聞きました。

東京都水道局の取り組み



建設部長　御園 良彦氏に聞く

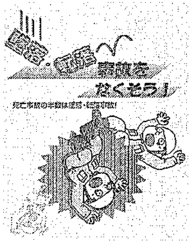
4月に仕様書改定　新しく項目盛込む

墜落・転落事故防止への取り組みとして、都水道局は01・02年度の2カ年に約5億円を投入して浄水場や給水所などにある危険個所の解消を実施しています。

「現在、既設施設の危険個所の解消策として、開口部の手すりや固定はしごへの背かごの設置などを順次進めており、02年度内にはすべての危険個所に安全設備の設置を完了する予定だ」としており、維持管理部所での防止策を重点的に進めています。

また、設計部所においても、施設の築造・改造時に、維持管理上生じる危険個所について、あらかじめ安全対策を考慮するよう努めています。

さらに、4月には工事標準仕様書を改定し、墜落・転落事故防止に関する項目を新たに盛り込む方向で検討を進めるとともに、「施工計画書への墜落・転落防止に関する具体的な取り組みについてはこれまでも指導してきたが、4月からは施工計画書の記載要領に盛り込んで義務付ける方針だ」と、墜落・転落事故撲滅へ向けての取り組みを強化することにしています。


墜落・転落事故をなくそう！
死亡事故の半数は墜落・転落事故!
東京都水道局

都水道局が作成したリーフレット

手すり先行足場のモデル工事を検討

事故例をDB化　職員に技術継承

都水道局では、現在、工事請負者との安全連絡会や職員の安全意識を高めるための監督員会議を毎月開催していますが、墜落・転落事故防止に対する職員や現場作業員の注意をさらに喚起するため、01年10月にリーフレット、『墜落・転落事故をなくそう！』を作成しました。

とくに「作業前ミーティングなど安全教育の一環として活用してもらうため、できるだけイラストやグラフを多用し、ビジュアルに訴えたものにしている」というとおり、わかりやすい内容となっており、今後も元請けや協力会社への普及を拡大し、末端のすべての作業員に至るまで事故防止の意識を徹底したい考えでいます。

今後の具体的な取り組みとしては、「国土交通省及び農林水産省でモデル工事を実施している、手すり先行足場についても、モデル工事の結果などをみながら、水道局でも請負者への指導やモデル工事的な取り組みを検討していきたい」とさらなる安全確保に意欲を示しています。また、職員の安全に対する意識を喚起し、同種同様な事故の再発防止のため、「02年度からは過去の事故例をデータベース化し、局内LANでいつでもアクセスできるようにする」としています。

「事故防止には安全管理も含めた技術の継承が必要不可欠だが、若い技術者などは必ずしも事故の経験がない」と指摘し、データベースなどを活用した安全教育を徹底する考えのようです。

仮設安全時評

21世紀の構造体「ジ・アース」

東京電機大学教授
ティアイエスエンドパートナーズ代表　今川 憲英

20世紀後半から、建築の構造体に異変が起こり始めている。

私は構造設計を始めて30余年になるが、この間、国内では四国の高知・徳島県を除く45都道府県に1500余りのプロジェクトを、海外では隣国の韓国を始め、フィリピン、シンガポール、マレーシア、インドネシア、スリランカ、モンゴルといったアジア地域、ヨーロッパではパリ、アフリカはエジプト、ソマリア、スーダン、北米大陸ではカナダのハリファクス、米国のフィラデルフィア、サンフランシスコ、中米のホンジュラス、コスタリカ、南米ではベネズエラで、20余りのプロジェクトを実現してきた。

この構造設計と現場監理を通じて痛感したことは、日本ほど技術を高度に集中し、そして分離しながら建設している国はほかにはないということである。建築の質は、素材を適材適所に使用して実現されるものだが、日本や米国、カナダでは、単一素材で単一架構を量産し、あたかも質の高い建築をつくっているかのごとくである。言い換えれば、日本の建築構造は計画では汎用性を実現しているが、実際の構造には考慮されておらず、計画対象の建物にのみ使用されるのが殆どである。その結果、建築仕上材の耐用年数程度の30年前後で架構素材もスクラップとなり、再利用性がほとんどない建築の構造となっているのが現状である。

しかしながら、発展途上にあるアジアやアフリカ諸国では名目上、設計規準や基準が存在はするが、実際の建設にまで法が浸透していない。計画は計画として認識されてはいるが、基本的な建築の骨格が仮設的な素材で建設されるのが実態である。実際の建物とは別に、この建設に関する認識の差を目の当たりにする時、建築とその架構性の恒久性とは、という再認識にかられる。つまり、アジア・アフリカ諸国では、仮設材が恒久構造物として、恒久的とされる建築を支えるのである。

石やレンガ、木、スチール、鉄筋コンクリート、膜やガラスで、組積からトラス、ラーメンアーチ、サスペンション、ドームや空気膜、そして各種立体ハイブリッド構造を世界各地で実現した私にとって、この開発途上国の建設方法は、21世紀の日本が指向する建築空間の可動化・仮設化、ひいては空間の変態化の原点となると思われる。

うつくしま未来博の中心施設であった「ジ・アース」は、日本の構造体認識とは異なった認識の架構体である。動物に例えれば、メーン空間である中央ホールは骨であり、外殻を形づくる線曲面は筋肉、そしてその外殻を覆う皮膚からなる自然な構造体をイメージした空間構造である。骨には仮設サポート（自然の外力に対して圧縮部材として働く）を用いたダブルチューブ構造、外殻構造は異形鉄筋、そして皮膚は膜材を使用している。すなわち、動物や人間でいう筋肉と皮膚となるのである。この「ジ・アース」が何故21世紀の構造かというと、この骨と筋肉とスキンは、目的に応じ、時に応じ、形を変え、場所を変え、視覚的認識を変えることができる、動くことができる架構だからである。

つくばエクスプレスで　モデル工事試行

鉄建公団関東支社

手すり先行足場

8現場の安全性見極め

日本鉄道建設公団関東支社はことし1月末から、施行工事での墜落・転落事故防止に向けた取り組みとして、施行中の常磐新線「つくばエクスプレス」建設工事の8現場で、手すり先行工法のモデル工事を試行しています。

この取り組みは、国土交通省や農林水産省が直轄工事で推進している手すり先行工法のモデル工事に呼応して実施することになったもので、手すり先行工法の安全性を見極めていくことにしています。

同公団関東支社では「仮設に起因する事故は、重大事故につながる可能性が大きいことから、その防止に向けて手すり先行足場を試験的に導入して、モデル工事として実施することにした。モデル工事を実施した後、手すり先行足場を評価していく」としています。

「つくばエクスプレス」は、東京・秋葉原を起点として埼玉、千葉両県を経て茨城県つくば市に至る全長58キロの都市高速鉄道。

1985年7月の運輸政策審議会答申「東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画」の中で、整備をするよう位置づけられました。

1993年に着工し、現在、工事は最盛期を迎えているところです。

同関東支社が実施している今回のモデル工事は、三郷鉄道建設所、守谷鉄道建設所、東葛飾鉄道建設所、つくば鉄道建設所管内の各2現場・計8現場です。

ちなみに、8現場の名称と施工会社は以下のとおりです。

▽三郷中央StBL（戸田JV）、八潮BL（佐藤工業JV）、下小目西BL（五洋JV）、伊奈谷和原St路盤（熊谷JV）、流山運動公園StBL（鉄建JV）、流山新市街地StBL（大林JV）、島名StBL（鴻池JV）、苅間BL（不動JV）。

近畿支部初の安全点検

点検に先立ち松田近畿整備局企画部技術調査課労働資材係長があいさつ

手すり先行工法　北野高架橋（春日和田山道）で実施

全国仮設安全事業協同組合近畿支部（藤井正光支部長）は5日、国土交通省近畿地方整備局発注の春日和田山道路北野高架橋下部工事（兵庫県春日町坂～氷上町北野地先）で、近畿支部として初めての手すり先行工法のモデル工事安全点検を行いました。

安全点検は、まず工事事務所で松田晋次近畿地方整備局企画部技術調査課労働資材係長があいさつし、小田急建設の松本裕春日和田山道路北野高架橋下部工事作業所長が工事概要を説明しました。

続いて、現場での安全点検が行われ、施工管理者など立ち会いのもとで下村文夫全国仮設安全事業協同組合近畿支部支部統括安全監理室長らによって、約1時間にわたり実施しました。今回点検を行ったのは、同下部工事のうち橋台1基です。

仮設安全監理者らは、約30項目に及ぶチェック項目を、1つずつ確認しました。その後、安全点検を行った上での問題点などを施工者に講評しました。

モデル工事は、2000年3月に国交省が手すり先行足場を採用したモデル工事を実施する旨の通達を行い、全国で80カ所が指定されました。モデル工事の安全点検は、北信越支部や中部支部では01年度から行われていましたが、近畿支部では初の実施となります。

藤井正光全国仮設安全事業協同組合近畿支部長は「モデル工事安全点検を近畿支部でやっと実施できて喜んでいる。安全点検を行った現場で事故が起こらないようにすることが大切です。02年度は全国で5000件の安全点検を行いたい」と話しました。

松本所長は「手すり先行工法は、慣れれば従来工法と手間は変わらないと思います。ブレスなど外した人が自分で付け直すよう指導しています。塞ぎ板の採用などと合わせて安全対策に万全を尽くしていきたいと思います」と話しました。また「部外者による点検は、慣れから普段自分達が気づかない点を指摘してもらえるので、納入業者などが定期的に検査してくれると大いに助かります」と注文しました。

近畿支部では、今後もモデル工事の安全点検を行うと同時に、当組合では5年で全国5000人を目標に、仮設安全監理者の教育事業にも積極的に取り組んでいきます。

読者の声

役所に勤務している者です。ACCESS新聞を拝読しています。熱心に安全活動に取り組まれている姿が伝わってきて、心より賛同しております。さて、平成13年の建設業関係死亡災害発生状況の調査結果（速報値）を見ますと、前年より130人ほど減少して601人となっています。601人という数は由々しき規模には違いありませんが、大幅に減少したことは素直に喜ぶべきだと考えてよいと思います。投書したのは、この減少に貴・仮設組合の現場点検などが役立っているのではないかと感じるからです。というのも、ACCESS新聞でも指摘されている足場関連が中心とされる墜落・転落、飛来落下による死亡災害は、前年から40人も減少しており、2番目に減少幅の大きい道路交通事故の28人を大きく上回っています。40人も減少しているといっても全体に占める墜落・転落、飛来落下の割合は47%に及びます。貴・仮設組合の活動が全国津々浦々の現場にまで浸透されることを期待しております。

（匿名、45歳）

全国仮設安全事業協同組合では現場の足場点検をしてるそうですが、発注者やゼネコンの反応はどうなのでしょうか。安全を確保するのに反対する人はいないと思います。ましてや足場点検は組合（員）が手弁当で行っていると聞きます。言いにくいでしょうが、仮に点検に反対する者がいるようなら、ACCESS新聞で記事にしてみるのはいかがでしょうか。

（ゼネコン社員、42歳）

ACCESS新聞1月号を読んで、さすが作家の先生は言うことが違う、と感心した。「足場をつくった人も運んだ人も、さらに組み立てた人も等しく本体をつくった人と同列であり、そうした方がたの労苦が構造物として結実し、一般の憧憬を引き寄せる存在となります」。そのとおり。偉い先生に言ってもらえると百人力だ。俺は鳶（とび）職だけど、前々から若い元方（元請け）のサラリーマン君たちから「お前らは俺らより下の人間だ」って見下したような感じで指図されるのが腹立たしかった。労働は同列だろ！。同列じゃないと思っているから、自分たちは安全な場所にいるから安全についても真剣味がないんだ。俺は、頼りになるACCESSの隠れたファンだぜ。

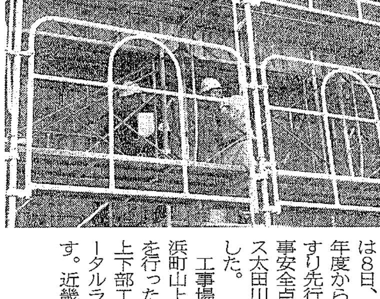
（とび職、28歳）

国の工事で手すり先行足場のモデル工事が行われているそうですが、安全確保のためには良い手すりだとわかっているのだから、モデル工事などと言わず、正式に採用すればいいと思います。国はどう考えていて、どういう風になるのか、『建設通信新聞』でも『ACCESS新聞』でもいいから教えてください。

（工業高校生、17歳）

近畿支部・北信越支部

太田川橋（美浜BP）でも安全点検



当組合の近畿支部（藤井正光支部長）と北信越支部（太田雅征支部長）は8日、国土交通省が今年度から実施している手すり先行工法のモデル工事安全点検を美浜バイパス太田川橋工事で行いました。

工事場所は、福井県美浜町山上地先。今回点検を行ったのは、同工事の上下部工事のうちPCポータルラーメン橋1基です。近畿整備局福井工事事務所の発注で、日本鋼弦コンクリートが施工しています。

安全点検は、まず松田晋次近畿地方整備局企画部技術調査課労働資材係長があいさつし、続いて現場での安全点検が行われました。

施工管理者など立ち会いのもと、下村文夫全国仮設安全事業協同組合近畿支部支部統括安全監理室長らによって、約1時間にわたって実施しました。安全点検実施後は、現場事務所で問題点などを施工者に講評しました。

松田係長は「実際作業している人だけでなく、下から見ていても安心感がある。手すりに色などをつけてみたら面白いのでは」と提案しました。

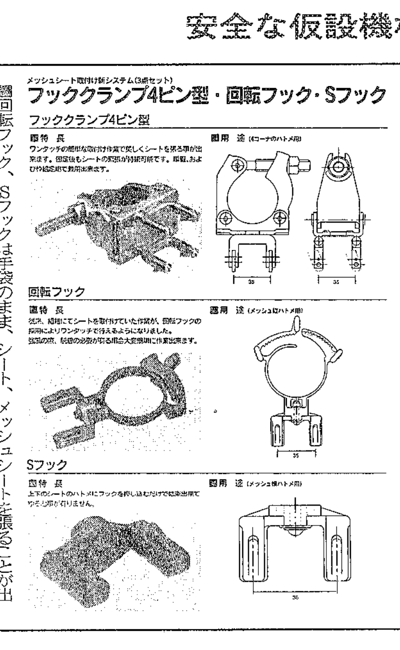
日本鋼弦コンクリートの上前田憲英所長は「手すり先行工法は工事現場の人だけでなく、外部の人にも評判がいい」と述べました。

23日放映のＴＢＳ「日本の近代化遺産」　田村喜子さんが出演

２月23日（土曜日）の午後３時から４時半にかけて、ＴＢＳ系列で「日本の近代化遺産」という90分番組が放映されますが、その中で作家の田村喜子さんが出演します。田村さんには、当組合の全国仮設安全大会で総合コーディネーターを務めていただいたところであり、「土木の応援団長」としても名高い方です。

番組では、俳優の榎木孝明さんとはなさんが、日本各地に存在する土木遺産を訪ね歩き、その中で田村さんが書籍に編んだ琵琶湖疏水も取り上げられ、それを２人に解説する個所が番組のスポットになります。

安全な仮設機材の新製品紹介


メッシュシート取付け新システム（3点セット）
フッククランプ4ピン型・回転フック・Sフック
フッククランプ4ピン型
■特長
ワンタッチの簡単な取付け作業で美しくシートを張る事が出来ます。固定後もシートの緊張が持続可能です。
■用途（4コーナのハトメ用）
回転フック
■特長
従来、結束にてシートを取付けていた作業が、回転フックの採用によりワンタッチで行えるようになりました。
■用途（メッシュ縦ハトメ用）
Sフック
■特長
上下のシートのハトメにフックを差し込むだけで結束出来てゆるむ事が有りません。
■用途（メッシュ横ハトメ用）
■回転フック、Sフックは手袋のまま、シート、メッシュシートを張ることが出来ます。また、ゆるむことがなく作業効率が良くなり、美観も良くなります。
大嘉産業株式会社　（☎03-5742-0511）

地中梁通路用昇降階段
法面作業用昇降階段
効率→10倍
自在傾斜→20°～65°
重量→50%
手摺
アルミ合金製傾斜自在階段
ラク²タラップ
特許第301338号
NIKKO 仮設機材シリーズ
◎角度調整によりレールに沿ってツマミが動きます。
◎ステップが水平になった地点でツマミをレールのガイドに押し込み、しめ込みます。
日工セック株式会社